

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を受けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

1 コリントへの手紙1：17-18 イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。「ゼブルンの地とナフタリの地、／湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、／異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、／死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

マタイによる福音書4:12-17

【説教要旨】

私が神学校の推薦人になり献身し、学び、牧師となっている秋久牧師は、「るうてる1月号」で、「私は宣教する」という題で説教を載せています。「新しい年、2026年となりました。この2026年を、はりきって行きましょう！いつも笑顔で、元気印で行きましょう！……と、元々の自分におよそ似つかわしくないようなことを、あえて言ってみました。『自分を超越する』とはこのようなことかなと思います。」とユーモアをもって、語っています。先生が日立の会社を辞めて、牧師になろうと決心したのは、人生の大転換だったと思います。人には『自分を超越する』そういう大転換の時というものがあるのではないのでしょうか。

「イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。」とありますようにイエスさまの大転換の時が始まったことを意味します。いわゆる30歳から3年半のイエスさまの公生涯の初めの時です。その初めの時に、みなさんはお気づきになりませんか。「退かれた。」とあります。進んだではなく退いたのです。これは、どのようなことを私たちに教えてくださっているのでしょうか。同じように気づいておられた加藤常昭牧師は「それは、既に主イエスが幼子として歩まれたその道を依然として辿っておられることを書きたかったからではないでしょうか。」と言われ幼児イエスがヘロデ王の追跡を逃れてエジプトに退いたのは神の御手の中に守られて、世の暴力から逃れることを意味するのだと言われ、「ガリラヤに退かれた」ということも神の御手にご自身を委ねることから始められたと言われます。「ガリラヤの地に退き、神のみ手にご自身を委ねることから活動を始められました。それはいつでも、神の力の中に身を潜め、神の力の中に立つことを意味したのです」（加藤常昭説教全集 教文館）

人生の大転換には進むとき、人の思いを超えたベクトル（方向と力）が動くのですが、実は、ここでは退くことだという言葉が意味するものです。それは、人の力から退いて、神の大きな恵みと守りのうちに神の力の中に身を潜め、神の力の中に立つということです。

ルーテル神学大学の学長だった岸千年牧師が、神学生によく言われていた言葉を思い出します。神学校にいるということ
は、「^{たらい}盥に入れた泥出しの鯉だ」というのです。特に秋久牧師のように大会社から、あるいは東大、京大という有名大学を出て来られる。未来が保証されているのにもかかわらず、未来が保証されず、未来を知らずして牧師になっていくということは、この世的には、将来が安定しているにもかかわらず敢えて、それを失う。それがどんなに大きなものであっても。今まで自分を支えていたものを吐き出す。パウロの「キリストのゆ

えに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。」という「ふん土（塵あくた）」というものを吐き出す盥が神学校だということです。吐きだして、盥に潜む。退くことです。ガリラヤの地に退き、神のみ手にご自身を委ねることから活動を始められました。それはいつでも、神の力の中に身を潜め、神の力の中に立つことを意味することです。

「悔い改めよ。」とイエスさまは言われます。この言葉は、方向転換という意味です。それはいつでも、神の力の中に身を潜め、神の力の中に立つという方向に転換するということです。

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

私たちの人生には、すべてに時があり、その時々に変換、あるいは大転換を余儀なくされます。しかし、この時々インマヌル（神とともにいます）と呼ばれたイエス・キリストがおられる。イエス・キリストがいつでも、神の力の中に身を潜め、神の力の中に立ち退かれたように、神の力の中に身を潜められ、神の力の中に立つという方向転換をする、ここに私たちの喜びの道がはっきりと見えてくるのです。

自分が大切にしているものを神さまが用意してくださった人生という盥の中で、吐きだしていく、それが神を求めていく者の歩みです。

イエスの「悔い改めよ。天の国は近づいた」、「天の国は近づいた」、という言葉は、神さまの支配が、あなたに近づき、大転換の中で、悲しみ、苦しみ、行き詰りにあっても、昨日まで闇であった歩みがあなたを神の力によって導き、光の内にあゆませてくださいます。秋久牧師の言葉の『自分を超越る』という出来事になってくるのです。

キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土（塵あくた）のように思っている。フィリピ信徒の手紙3:8

このパウロの信仰を私たちの信仰の歩みとして、私たちの人生への勇気をいただいいきましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



力ある者が、力をもって支配する暴力の世界がまかり通ることになっています。

それを可能にしたのは、皮肉なことであるが、人間が作った科学技術発展です。科学技術の発展は人を幸せにすると誰もが疑わなかったものです。しかし、科学技術発展は、恐竜のように強大化し、人には制御できない時代はすぐそこまで来ています。とくにAI(人工知能)発展はどうなるか予測不可能です。AIの発展は、私たちの脳は逆に低下させています。誰もが可笑しいと思えることを平気で力任せに強引に推し進めていく、知能の低下。その結果、至る所で不正、そして戦争が起こり、不幸になっていっているのではないだろうかと思います。

わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがメシアだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞かろうが、慌てないように気をつけなさい。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。

マタイによる福音書 24:5-7

園長・瞑想？迷走記



社会的大きな変動の中で、幼稚園は、存亡の課題を山積み🌸にする日々、対応に追われているというところが正直なところである。

先週も「2026年度教育・保育方針」を理事、評議員、監事と共有し、この時代にあって、キリスト教主義幼稚園運営をどう運営していくかを共有した。

課題の多い、重い時代を生きている子に今だからこそ、私はキリスト教主義だと思っている。妥協することなく、「神は愛です」ということを実践していくことが最も必要な時代になっていると思う。

日毎の糧

聖書：主はわたしの光、わたしの救い。わたしは誰を恐れよう。
詩篇27： 1



ルターの言葉から

確かに主は、試練の最中にも平和を与えてくださいます。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

主の沈黙と主への信頼

詩篇27篇は、「信頼を表面する詩編中、最も美しいものの一つで、苦難が大きければそれだけ信頼することの喜びを深めて行く信仰者の心をよく表現している。」①

「主はわたしの光、わたしの救い／わたしは誰を恐れよう。主はわたしの命の砦／わたしは誰の前におののくことがあろう。」と神への信頼を冒頭から詩人は、信仰の告白をする。

しかし、ここに至るまで、いや、今、詩人を苦しめるものがあった、ある。ルターは「主の与え方はいつも、順調と逆境が交互にくるようになさる」と言って、ひたすら、御顔を求めていく歩みとき見いだすことは、どんなことがあろうと「主は必ず、わたしを引き寄せてくださいます。」というこの詩人と同じように、「詩篇は、苦しみの中にあるキリスト者に力を与えます」と言います。どうだろうか、みなさんの信仰の歩みを振り返る時、この詩人と重ね合わせることができないだろうか。

結びで、「わたしは信じます／命あるものの地で主の恵みを見ることを。主を待ち望め／雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め。」と信頼の表明をする。「ヤハウェが沈黙するかにみえるときにこそ、そうした勇氣（「雄々しくあれ、心を強くせよ。」）と希望（「主を待ち望め。」）を保持し続けよ、と力強く勧告しているかに響く。」②

①新共同訳 旧約聖書注解Ⅱ 太田道子 日本基督教団出版局

②「詩篇の思想と信仰Ⅱ」月本照男 新教出版

祈り：いかなる苦難の時であって、主に信頼して、雄々しく、心を強くし、主を待ち望むものとしてください。アーメン。

甘木通信

コヘレトは言う。空の空
空の空、一切は空である。

コヘレトの知恵



老いて、コヘレトをまた読みだしています。

「空」を旧約聖書学者の小友先生は、「束の間」と捉えています。振り返れば、あっという間に過ぎた人生だと思います。

新共同訳聖書は、「コヘレトは言う。なんと^{むな}いう空しさ なんと^{むな}いう空しさ、すべては空しい。」と訳しています。人生は空（むな）しいというのです。

「空」ということは、自分の人生は「束の間」であり、その内容は「空しいものである」というのです。高校生時代に大病して以来の大病を昨年、しました。この一年間を通して、人生は束の間であり、その内容は空しい、「そうだ」と私は納得しています。束の間であり、空しいものだから、私は起きるときも寝ている時も時を愛おしくなり、時を楽しもうと思うようになりました。自分がしていることはすべてにおいて、空しいものだから、何があっても、今を力いっぱい生きようと思うようになっています。「無理をしないでください」とよく慰めと支えの言葉をいただき感謝です。私はちっとも無理をしていないと思っています。むしろ、楽しんでます。「その労苦の結果を楽しむように定められている。これは神の賜物なのだ」と思うのです。広い庭の掃除は、特に病気の時はしんどいが、ここまで掃除が出来たとあと少しと楽しんでます。いや、庭に遊ばれています。

(甘木日記)土) 羽村幼稚園の「2026 年度の教育・保育方針」を理事、評議員と共有。夜、福岡に着く。日) 甘木教会に 5:40 の電車に乗る。真っ暗の車窓の外は静か。礼拝も無事に終わる。トンガの青年が来られる。月) 日善幼稚園の仕事が始まる。マラソン大会の練習の引率。発達特質の園児をサポート。元気になったと感じる。火) 設置者はお母さんの見舞い、主任はお父さんの病院の付き添いで不在。早朝出勤、遅く帰る。無事に終わりホッと。感謝。水) 職員会議は、日々の保育業務、26年度の準備。木) 日善幼稚園、松崎保育園、甘木教会へ。寒い。金) 日善幼稚園の青空の下で、マラソン大会。みんな楽しみました。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）東京・羽村幼稚園の2026年度の「教育・保育方針」を基本として厳しい幼稚園を取り巻く社会状況の説明と対応について協議の時を設けた。評議員の次男が、zoomで参加。インフルエンザに罹っているのがそこで分かる。その後、管理者会議を開き、具体的対応を決める。ぎりぎりに飛行機に乗り、最終リムジンバスで久留米に着く。家内は共に歩んでHさんの告別式後、長男の教会の天王寺教会へ向かう。日）始発から2番目の電車で甘木教会へ。車窓の外は真っ暗。これも乙ある眺めで癒される。ばたばたと主日の準備。新来者の方がトンガーの方であった。グローバル世界である。グローバル化を留めることは出来ないし、新しい国の在り方を考える時代だと思う。家内が大阪より帰ってくる。「食事済んだ?」、「いや」。黙って家内が夕食を作っている。当たり前であって当たり前でないことに手を合わせる。月）幼稚園に。今日はマラソン大会の練習に引率。久しぶりに走る気力・体力も出来てきて、発達特質の園児に寄り添って走るが、トラック一周半で交代。それにしても空は青く、温かい小春日和。帰宅してぐったりと疲れる。帰天されたHさんのお母さんに電話をする。長い信仰の出会いである。火）責任者3人が不在となるので、幼稚園に早めに行き、留守番し、遅くに帰る。夜は幼稚園運営委員長と会食。水）職員会議、日々の保育業務を話すとともに2026年度の準備。現実の厳しい状況にあるが、悩みの時に慰めを、くじけそうになる時、くじけないようにいつも希望と忍耐のうちに歩むことができるように主がおられると信頼する年でありたい。木）気になり朝早く日善幼稚園へ。主任が庭の掃除をしてくださっている。その後、松崎保育園へ。職員の聖書の学び、子ども礼拝の、長く人の命を保ってく

れた井戸のメの聖別の祈り。水を入るとポちゃんと響きが返ってくる。本当にご苦労様でした。何度か井戸のメの祈りをささげたが、ぜひ、式文に加えて欲しい。昼は甘木教会へ。甘木線はゆったりとからの光を背に受けて、眠た
いと、電話がなる。刈谷教会から伝道師となられたK伝道師が天に帰られた。何度か実家を訪ねて、お母さんと話した。今は天でお母さんとゆっくりとお茶をのんでいるだろう。寒い。金）子どもたちはマラソン大会、悲喜こもごも。一つの思い出を楽しんで欲しい。明日は葬儀で愛知県・刈谷。明々後日は、教会総会后、東京。おいしい病人だぞ(笑)



(刈谷教会礼拝堂内部)

(外) 動く。車窓の外

くなる。夜、くつろいで